

市町村及び住民との意見交換の状況

平成23年8月31日時点

- 1 産業振興計画の総括・次のステージについて
（市町村との意見交換の状況） 1

- 2 地域アクションプランについて
（市町村・地域住民との意見交換の状況）
. 5

1 産業振興計画の総括・次のステージについて

(市町村との意見交換の状況)

※市町村としての評価（自己評価及び計画全体への評価）を確認

【意見交換の論点】

- 1) 産業振興計画の総括
地域アクションプランなどに対する自己評価や計画全般に対する評価
- 2) 県の支援の総括
「産業振興総合補助金」「産業振興アドバイザー制度や人材育成研修」など個々の支援ツールおよび「地域本部」など、県の人的なサポート体制の評価
- 3) 次のステージに向けた提案
「県の施策（成長戦略）」「支援ツール」についての提案および「地域の取り組み（地域アクションプラン）」についての検討状況

1 評価について

《総合》

- 今の方向を生かし、これからも進めていくべきである。
3年間の取り組みで、船（県）が本当に動き出したとつくづく実感している。
今までの県の計画と異なり、徹底して見直し、また徹底して実行されていることから、これまでの取り組みに枝を張っていくよう取り組んでいくことが必要。
- 県と市町村が一体となって取り組んでおり評価している。
産業振興計画のこれまでの取り組みは、全体として良い方向にあり、町の職員の提案力と、それを自分たちでどう育てるか考える機会になっている。
- 産業振興計画により、重点的・効率的に支援ができた部分があるが3年では十分とは言えないので、引き続き行っていく必要がある。
- 地元の者をやる気にする意識付けの面では効果はあったが、まだ効果を感じるまでには至っていない。
- 23年度より「産業振興課」設置。産業振興計画は、組織再編に至るまでの仕掛けをしてくれたと感じている。一方で、現時点では地域の産業振興までに結びつくまでには至っていない。
- 効果が薄いのが現状であるが、新たなジャンルの新店舗開業による空き家の解消など、少しずつではあるが町に変化が出てきている。
- 当該地域では製造品出荷額が少ない。製造業も少ないことから雇用の受け皿となる企業がなく、産業全体に変化は得られていない。
- （計画の進捗状況の説明を受けて）県内で差がでてきているように感じる。進んでいるところは、民間、地域団体、行政のどこが引っ張っているのか。
- 計画の進捗について、県が非常にアグレッシブに進めていて、非常にやる気を感じるが、もう少し地元の自主的に任せたい。

- アクションプランに載せないと補助事業の採択にならないとの理由で、あまり精査なく位置付けた案件もあるため、全ての取り組みに効果があったか疑問。
- 毎回同じような人が関わり、産振計画が一部の人のための取り組みだと思われる。ただ、いわゆるアンテナをあげている人とそうでない人の違いだとは思いますが、一方で、そうしたアンテナをあげていない人にどうあげさせていくのかということが課題。

(参考) 自市町村の産業面への効果について

1) 大きく進んだ	3町村
2) ある程度進んだ	21市町村
3) あまり変わっていない	6市町
4) その他	2市町
○) 無回答	2市村

《地域本部》

- 地域本部のサポートについては概ね高い評価。
地域支援企画員等のサポートなくしては、実現しなかったとの感謝の言葉も多い。

《産業振興総合補助金》

- 産業振興総合補助金の財政的な支援により事業が進捗したとの評価がある一方、事務手続きの簡素化を求める声も少なくない。
- 総合補助金については、地域への誘客の拠点づくりにかかる観光振興の取り組みなどは、短期での成果や経済性の基準のみによらないことを求める意見もある。
また、補助率・限度額の嵩上げ、対象経費の拡大、複数年支援など制度の対象の拡充の要望もある。
- ステップアップ事業よりもさらに少額の奨励的な助成制度、また芽出しのイベントなどソフト事業への助成を要望する声もある。
- 町単補助で、1件あたり50万円の支援を行い、商品開発や食品加工の取り組みを進めている。県が継ぎ足すような形での支援が欲しい。
- 以前にはなかった民間企業等への補助メニューができ、十分活用できたと評価する。
これまで、「収益が上げられるのであれば、自己資本でハード整備を行えば良い」との意見が産業の活性化を阻害していたとも言えるので良いこと。

《産業振興アドバイザー》

- 産業振興アドバイザー制度に関して、継続の要望が多い。経営分析や商品開発、販路開拓などの専門的な助言など、事業の企画立案、実施などの各段階で有効に活用できたとの声多数。

2 次のステージに向けて

《成長戦略》

- 地域でまとまって木質バイオマスの取り組みを進めていきたいが、供給の仕組み（採算性など）を不安視する市町村もある。

- 太陽光などの取り組みは、個人での取り組みは難しいので、県がその方向性を示し、補助制度の拡充など、住宅への太陽光発電の設置補助の上乗せなどに取り組むべきではないか。
- 新エネルギーへの転換をヨーロッパのように急いで行えば、高知県でも雇用が拡大するし、そこで得たお金で、必要な農林漁業などの基盤強化につなげることができる。町として大規模風力発電所の建設準備が整っており、一定の対応は可能。
- 広域の観光振興や経済振興を考えた時に重要な案件（例：安芸ドーム球場の改修）は県の政策判断として支援して欲しい。
- NHK で仁淀川が8月と9月に特集され、10月以降、訪れる人も増えてくると予想される。おみやげなどの物産販売などを含めた今後の売り出しの体制を組織的に整備していきたいと考えていることから、県からの人的な支援などの方策について、検討をお願いしたい。
- 林業については国策としての対応が必要。知事と各市町村の意見交換などから次の国の段階に話として上げていかないといけない。
- 林業は基本的に新たなものは難しい。林業は産業振興でなく、別の事業として地域づくりのような支援制度を考えて欲しい。
- 「地産外商」から「外産外商」も検討して欲しい。地産にこだわると原価率が上がることもあり、生産コストを削減するという意味から、原料を県外から仕入れ、加工するという仕組みに支援ができないか。

3 個別意見について

《その他》

- ふるさと雇用の終了後も引き続いての支援の要望あり。（国・県へ）
- テレビ会議システムを使った人材育成事業（土佐経営塾）では、行政と市民の距離が近づき、積極的な意見が出るなど、やる気にもつながっていることから非常に有意義。
- 地域の産業の活性化に向けては、全般的にプレーヤー（実施主体）がいないことが課題。プレーヤーを育てていく必要性を感じている。
- 生産者、行政、JAが同じ方向を見ないとはいけませんが、この点が十分でない。生産者は「行政の支援はやって当たり前という意識」。JAは「やっちゃんりゆうという意識」。このあたりが課題。
- 漁協、農協とも合併による弊害が出てきている。支所がやりたいと言っても本所で通らない。JA、漁協が危機感を持っているのか疑問。
- 林業で雇用を守っていくために、不在村地主の希望者からは、山林を買い取り、森林組合が事業量を確保していくことも考えている。
- 人づくりは即効性がない。意識改革は必要なことでサテライト会場となったことで住民が直接、お客様と接するための勉強をし、相手を見るようになった。こうした経験は次に生かしていける。

2 地域アクションプランについて

	主な意見
安芸地域	<p>【農 業】 ○ 野根米は関西方面で好評だが価格が安いので、ブランド化を図りたい。</p> <p>○ 次期計画の地域アクションプランに盛り込みを検討している取り組みについては、地元産の野菜・果物を使った特産品開発(スイーツ)を考えている。</p> <p>【観 光】 ○ 次期計画の地域アクションプランに盛り込みを検討している取り組みについては、観光では安芸球場のグレードアップと港の活用(釣り客の誘客)、ごめん・なはり線の活用と物販の促進、ジオパークを絡めた修学旅行や教育旅行の誘致を考えている。</p> <p>○ 次期計画の地域アクションプランに盛り込みを検討している取り組みについては、観光では「和」の活用、ジオパークと連携した体験メニュー(唐浜の化石)、民泊の推進を考えている。</p> <p>【分野共通】 ○ ジオパーク、タカシンなど産振計画の補助金を活用することによりある程度成果を上げた取組みがある一方で、地元の理解を得られなかったダイビング事業など進まなかった事業もあった。</p>
物部川地域	<p>【農 業】 ○ 現在シャモ鍋を南国市の特産品にしようと活動している。シャモ研だけが儲ける仕組みではなく、町全体が元気になる仕組みづくりに取り組んでいきたい。</p> <p>○ JA十市直販所(ひかり市)の移転、拡張(週2回→毎日開催にしたい)</p> <p>【商工業】 ○ ごめん町商店街は一過性であっても軽トラ市やアンパンマンの石像等で来場者がいる。これを商売に繋げたい。アンパンマンショップ的なものをしたい。ここで人が集まりだしたら周りの店主にも好影響を与えるのではと考えている。</p> <p>【観 光】 ○ 別府峡温泉を拠点とした「森の駅構想」といったものを検討したい。その中で、体験型観光として、パン作りや山歩き、間伐体験をからめ、森林をアピールしたい。</p>
高知市地域	<p>【商工業】 ○ 県外で高知産品を売り込むスキルの高い販売員、派遣スタッフが確保できる仕組みが欲しい</p> <p>【分野共通】 ○ アクションプランの位置づけ、方向性を明確にする必要がある(民間事業者の様々な取組みの拾い上げなど)</p>
嶺北地域	<p>【農 業】 ○ 営農組合のモデル事業3年目で、当初の目的はおおむね達成してきた。これから先はグリーンツーリズムもやっていきたい。みんなで模索していきたいと思っているので、ぜひ支援をお願いしたい。</p> <p>○ 補助金を導入し、碁石茶は全国的に名前が知れつつあり、生産者の生産意欲が向上している。まだまだ問題点はあるが、事業を導入できてよかったと思っている。補助事業は22年度で終了したが、新しい事業があれば導入したい。</p> <p>○ 大豊ゆとりファームでゼンマイ、生薬に取り組んでいる。将来的に、加工場を造ることを検討している。</p> <p>○ 米粉も知名度が低く苦労したが、認知度も高まってきて、月200万程度で販売できるようになった。リスクがあっても実施することでチャンスを作ることができると考えている。販売戦略や新製品は絶えず行っていく必要がある。</p> <p>○ お米も、新たにブランド米「雲海の光」をこの秋からしようとしている。付加価値をつけて売っていくことに嶺北の道があるのでは。</p>

主な意見			
嶺北地域	<p>【農業】 ○ ユリをつくっているが、1軒だけでは量の対応できないので仲間を増やしていきたい。新規参入者に支援があるといい。空ハウスの活用や新規で始めると最初の何年かは苦しいので最初の3年は支援すれば新規参入者も増えるのでは。</p> <p>【畜産業】 ○ はちきん地鶏は、全国に数々ある地鶏に追いつけ追い越せと、先例を見習っていかに短期間で追いつくかを考えている。まだ課題が多いが、現在、はちきん地鶏が世に出ていくかの正念場だと考えている。</p> <p>【林業】 ○ 心配事はれいほくスケルトンがどうなるか。自分たちみたいに材木に関わっているものからしたら、れいほくに光がさしたなと思っていたので、その光を消してほしくない。</p> <p>○ シキミについては、嶺北ブランドを育てていきたい。そのため、苗木を育てていきたいという声が出ており、金額的にも少し高いとので、できれば支援をしてもらえれば助かる。</p> <p>○ 本山町農業公社を核とした「原木しいたけ」の取り組みを行っていききたい。</p> <p>【商工業】 ○ ぼうむ合同会社は、若いものが集まり、一番元気がある団体と認識。焼酎の製造など町施設を使いたいとの申し出もあり協力していきたい。</p> <p>【観光】 ○ 清流館を中心に体験ガイドの磨き上げや情報発信、冬場のプログラム作成など、今年と来年で取り組むこととしているが、清流館だけでは難しいので、ブランド米の「天空の郷」の動きと併せてやっていきたい。</p> <p>○ カヌーの全国大会が開催されており、これを通じた活性化に取り組みたい。</p> <p>○ 交流事業について、22年度からの新たな町の総合計画に地域外からの人の受入れによる集落の活性化を位置付け、「せせらぎ会」「あけぼの会」の2組織を中心に町として積極的に取り組む。</p> <p>○ さめうらダム湖を活用した交流人口の拡大に取り組む。早明浦荘の改修を中心に、地域全体の振興を図る。</p> <p>○ 島根県にも視察に行ったが、土佐町でもセラピーロードに取り組んでいきたい。</p> <p>○ かつて旧本川村、別子山村と連携して取り組んでいた「山岳観光」に取り組みたい。</p>		
	仁淀川地域	<p>【農業】 ○ 「地乳」の取り組みは加工品のラインナップを広げるとともに農商工連携での企業化も見据えている。今後の事業進捗に合わせたアドバイザー制度の充実をお願いしたい</p> <p>【水産業】 ○ ウルメのブランド化は宇佐地区の若者を中心とした組織の計画に支援する形で進めることができた</p> <p>【商工業】 ○ 商店街の量販店跡地に商工会が中心となって集客施設を計画中であり、支援をお願いしたい</p> <p>【観光】 ○ NHKの仁淀川特集にあわせて、仁淀川流域の物産に認証シールを貼るなど差別化を図って売っていききたい</p>	
		高幡地域	<p>【農業】 ○ 四万十川源流で収穫できる大野見米として、付加価値をつけて売っていききたい。高い品質の標準化を図るため、選別機械を導入したいが支援はあるか。また、何よりプロセスを支えてくれる人が欲しい。</p>

主な意見	
高幡地域	<p>【農業】 ○ 中山間地域では小さな1.5次加工場がたくさんあり、小さな経済が生まれ雇用が生まれる形のほうが小回りがきいていい。高齢者が働け、生きがいも持てる</p> <p>○ 畑の八百屋さんの考え方で食材の加工や高速道延伸に向けた観光部門などに取り組み、法人を多角的な形にしていきたい。</p> <p>○ 高齢者の日々の生活を手助けできるよう法人化を目指している(おかみさん市)。都市との交流によってもお年寄りを元気にしたい。</p>
	<p>【林業】 ○ 地域の資源を活かして、桧オイルを抽出している。県外業者と共同で新しい事業所を設立して雇用を増やしたい</p>
	<p>【水産業】 ○ 上ノ加江漁業体験は、年1000人程訪れており、今後は修学旅行など営業面に力を入れていく。</p> <p>○ 須崎市の大谷漁協と連携、志和の女性部で昆布の加工販売を引き受けている。志和の天ぷらをつくりたいが、作業場や保管設備が必要。出資をしようという元気な人もいない。行政に支援してもらいたい。</p>
	<p>【商工業】 ○ 24年度以降はパートを含め50名位見込んでいる久礼新港背後地利用計画の推進を着実なものとしていく。</p>
	<p>【観光】 ○ 人を集めるために核となる拠点が必要。人が集まる場所を作って、生姜アイスやみょうがジャムを売っては。</p> <p>○ 環境や自然エネルギー、セラピーロードなど癒しの町として他でやっていないことをやり、観光と交流人口の拡大が必要。</p> <p>○ ホビー館の集客力をどう高幡地域に広げられるか。</p> <p>○ 町内に第2のホビー館構想があり、できるだけ早い時期に方向性を決めていきたい。</p> <p>○ 四万十町まるごとミュージアム構想への取り組みを検討しており、ホビー館効果を活かし、滞在型観光への取り組みを進めていきたい。</p>
	<p>【分野共通】 ○ 行政が全てに支援するのは困難。評価された地域や団体がまわりを引き上げていく形を作ることが大切。事業体同士、地域間、産業間と横の繋がりが生まれ、相乗的に底上げができていくことが狙いではないか。</p>
幡多地域	<p>【農業】 ○ 幡多地域はオリーブ栽培に適しており、「ぶしゅかんとオリーブ」のドレッシング作りの体験観光を目指したい。JA高知はたも、ユズ甘酢ソース・ユズポン酢の商品化で農家支援を進めていく</p>
	<p>【林業】 ○ 四万十ヒノキのブランド化に向けて、4市町村(四万十市、三原村、四万十町、中土佐町)が推進協議会を発足し推進を図る</p>
	<p>【水産業】 ○ クラインガルテン(滞在型農園)の漁業版があればと思う。</p> <p>○ 休校の小学校を活用して、大敷で上がった魚を使った加工品、魚醤の製造を考えている。</p>
	<p>【商工業】 ○ 太陽光の活用推進として、工業団地工場の屋根に発電施設を設置する検討を工業団地会長と調整中</p>

主な意見	
幡多地域	<p>【観 光】 ○ 牧野富太郎(平成24年度は生誕150周年)を活用した観光振興を。</p> <p>○ 観光面で外資を稼ぐことも地産外商。幡多郡で一番民泊が多い地域にしたい</p> <p>【分野共通】 ○ 農水産物加工を高知市近郊に委託しているが、コストが高く地域の雇用につながらない(幡多地域に加工施設が欲しい)</p>